

「輝く風土記の息吹 播磨国」

毎年、郷土資料館で開催されている特別展。今回は「輝く 播磨国」―風土記の息吹―というテーマで、奈良時代に書かれた『風土記』を紹介します。11月16日(日)には、中央公民館で記念対談も行われます。この機会に風土記の息吹を感じてみませんか。

▼期間	10月25日(土)～12月7日(日)
(休館日)	毎月曜日と11月4日(火)、23日(祝)、25日(火)
▼場所	播磨町郷土資料館
▼時間	午前10時～午後5時 (入館は午後4時30分まで)
▼入場	無料
▼後援	播磨町歴史を語る会

問 郷土資料館
☎0794(35)5000



風土記、どげん?
今から1300年ほど前の、奈良時代に書かれた本です。内容は、日本の昔の国、例えば『播磨国』『但馬国』などに、今で言えば市や町や村の名にあたる地名を全部書き、その地でできる物、土地の豊かさ、地名の由来、さらには、古くからの言い伝えを書いたものです。

つだけて。いずれも、当時の人々の生活がいまきと描かれていて、日本の古代史を研究するとき、必ず読まなければならない文献です。ただ、書かれた時期が少し異なるため、5つとも少しずつ書き方が違います。その中でも『播磨国風土記』は、最も古い書き方で書かれています。ですから、古事記や日本書紀にはない、より古い時期の話も少しだけですが、書かれています。それだけに当時の一般の人々の願いがよく分かります。



▲「播磨国風土記」写本、賀古郡冒頭部



しがつて、南毗都麻島(今の高砂の一部)へ逃げられました。そこで、その島へ船で渡るため、阿閑津までやってきました。そのとき、食事(あへ)を景行天皇に出しましたので、そこが「あへ・阿閑」ということになった「あへ」ということ。



▲復元した王冠(ミニチュア)



復元したものを展示

古い物を展示するときには、よく、さびたり、壊れていたりするものを並べますが、今回は、復元したものを多く並べます。昔、金色に光っているものは、金色に光るようにしたものを並べています。ですから、当時の人が見て、驚いたのと、同じ感動を味わっていただけるはず。例えば島根県から、当時の出雲の国の王様が身に付けていた刀を復元したものをお借りします。それは、見るだけでも、当時の技術の素晴らしさが分かります。みなさん、ぜひ郷土資料館特別展へお越しください。



▲復元した副葬品

「阿閑津に到り、御食を供進(たてまつ)す。故、阿閑の村(あへ)になった」とある。昔、景行天皇が、とても美しい印南の別嬪に会いに来られたとき、別嬪が恥ずか

【播磨国風土記】の特徴は、その地域で活躍した人を、どの風土記よりも多く紹介している点です。そして、登場する神や人々は、自分たちの地域をよくしようと努力している姿が見え、みんな、きらきらと輝いています。

記念対談
テーマ 『『風土記』を楽しむ』(仮)
▶パネラー
櫃本 誠一氏(大手前大学教授)
松尾 光氏(奈良県立万葉文学館)
▶日時 11月16日(日)
午後1時30分～午後3時30分
▶場所 中央公民館
▶入場 無料
▶主催 播磨町郷土資料館